

令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養う。日常生活に必要な国語についてその特質を理解し、適切に使う。人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	4月1～2週目は合科的・関連的な指導を取り入れ、学習環境に慣れることを主として授業を進める。2週目後半からは国語科の単元に沿った授業を展開している。	合科的な内容と国語科の内容の時間配分は現状のままで、国語科の言語領域の学習において、個別のワークシートや視覚的教材等を用いて、学習理解度を高めていく。
低	順序立てて書いたり、話したりすることが苦手である。	主語・述語の関係を丁寧に確認しながら、話の中心を意識して、文章を書いたり話したりすることができるようにする。
中	・習った漢字を文章の中で使うことが難しい児童がいる。 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景など、場面の移り変わりや叙述と結びつけて想像したり考えたりすることが苦手である。	・作文や日々のノート指導で既習の漢字を応用して使えるようにしていく。 ・段落相互の関係をおさえながら、内容を読み取らせたり、繰り返し出てくる語句などに注目させたりする。また自分で読み深めたことを友達と交流し、考えを広げられるようにする。
高	・話し合いの場面を多く設定することで話す力は付いたが、話型に沿った話はできて、自分で話を組み立てて、分かりやすく話すことには課題が残った。 ・漢字の読み書き、言葉の学習の領域において目標値は上回っているが、問題の意図を捉えて文章を書くことが苦手な児童が多い。	・自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合う機会を増やす。状況に応じて話型を確認したり、聞き取ったことを文章に書き表したりする場を設定する。また、聞き手に対し、より共感や納得がいく発信手段を検討し実行に移せるようにしていく。 ・記述の読み取りだけでなく、グラフや資料など統計データなどから情報を読み取る機会を増やすとともに、日常的に意図的な文章を書くなどする。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
自分に関わる目の前のことだけでなく、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係の視点を働かせて問いをもち、進んで調べたり考えたりしようとする力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・地図記号などの基本的な知識は身に付いているが、資料を選択する力や資料活用の方法に課題がある。	・資料の読み取りを丁寧に行い、根拠(理由)を明らかにして、自分の考えを全体に共有していく。

	・既習事項を関連付けて考えることに課題がある	・知識として理解したことが、生活の中にどう結びつき、関連しているのかを考察させる。さらに、今後どのように自分が関わっていくべきか考えさせる。
高	・日本の産業の現状と、国民生活とを関連付けて考えることに課題がある。 ・社会の課題を把握し、自らの関わり方を選択判断することに課題がある。	・ICT 機器を活用し、資料を多面的に読み取り、考察させる。 ・知識として理解したことが、生活の中にどう結びつき、関連しているのかを考察させる。さらに、今後どのように自分が関わっていくべきか考えさせる。 ・地図帳を日常的に活用するとともに、2つ以上の資料を関連付けて問題解決したり、記述したりする場面を多く設定する。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
・数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育む。 ・数学のよさに気付き、算数と日常生活との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	4月2週目から、算数科の単元内容に沿った指導をしている。児童の学習意欲を高めたり、量感を養わせたりするために具体物(算数ブロックなど)を用いた操作的活動を多く取り入れている。	課題把握力を高めるために、国語科と連携した指導を取り入れる。また、今後を見据えて、問題文の中で「分かっていること、求めたいこと、条件」に視点を当て、1年生でも十分理解できるような指導で丁寧な読解に取り組んでいく。
低	学習課題を捉えることに苦手意識がある児童がいる。	言葉の確認、課題の把握を繰り返し丁寧に言い、全員が課題に取り組んだり、自分の考えを書いたりできるようにする。
中	・表されている単位の大きさで量を捉えようとしてしまい、量そのものの大きさを正しく捉え、大きさを比べることが出来ない児童がいる。 ・数の大小比較について何の位に着目すると比べられるのか、他の場合は考えられないのか、判断できていない児童がいる。	・単なる単位換算に終始するのではなく、色々な単位を使って、同じ大きさを表す体験や実際に図に表したり具体物を操作することを通して、実体験に基づいて大きさを捉えられるように指導する。 ・何に着目すると課題が解決できるのか、なぜそれに着目したのかなど、根拠を問う活動を増やし、児童自身が自分の考えを明確にするように指導する。また、他の考え方は出来ないのかを常に教師が問うことで、児童自身の学びの振り返りの機会を設ける。

	・問題文を読み、その場面を絵や図に表したり、式に表したりすることに課題がある。 ・既習事項と結びつけて問題解決に取り組むことが難しい児童がいる。	・文章題など課題が解決できないときには、絵や図などに表して考えることが出来る体験を増やし、児童が課題にぶつかったときに、解決の方法を自分で選択できるようにする。 ・問題提示の工夫を行い、課題解決の際に既習事項と結びつけて考えことができるようにする。
高	・問題解決とそれに必要な既習事項を紐付けることに課題がある児童がいる。 ・整数及び小数・分数の計算の領域に課題がある。 ・問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて説明することはできるが、一人では気付くことのできなかった新たなことを見いだしたり、よりよいものにしたりすることに課題がある。	・データを多面的に捉え、友達や全体で考えを共有することで、様々な見方・考え方ができるようにする。習熟時間の確保を十分にとる。 ・計算の意味を理解させるとともに、問題場面を日常の数量関係に捉え直させたり、既習とつなげて考えさせたりする。 ・対話的な活動を積極的に取り入れるとともに、交流を通して、よりよい解決に向けて練り上げたものや対話的な活動の前後での自分の考えの変容などを書き残させる。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを通して、自然事物・現象についての問題を科学的に解決する力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・予想を立てる際に、既習事項やこれまでの経験を使って、自分の考えを出すことが苦手な児童が多い。 ・実験や観察は意欲的に行うが、確かめたいことを考えることや、そこからどのようなことが分かったのかをまとめていくことが苦手である。	・生活経験や既習事項から問題や仮説について、根拠を持ちながら予想を立てる活動を積極的に行い、自分の考えを相手に伝える活動を通して、問題解決力を養う。 ・体験的な活動や既習事項から気になることや考えてみたいことを探し、仮説を立てる。立てた仮説を実験や観察で確かめ、結果をまとめていく力を身につけさせる。
高	・学習問題の計画の際に、条件をそろえずに行おうとしてしまう児童が多く、結果にばらつきが出て、妥当な考えを出せない児童がいる。 ・結果からわかったことや、新たに確かめてみたいこと、これからの生活に落とし込もうとする児童が少ない。	・問題や予想・仮説を作り、それらを確かめるために、話し合い活動しながら、条件をそろえることや正しい順序で行えるように実験や観察の計画を立てていく。 ・自分たちで立てた計画を実践し、出た結果から妥当な意見やデータを考察していき、話し合いの中で、計画や実験方法の見直しや新たな問題作成につなげていく活動を行っていく。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
活動や体験の過程において、身近な人々や社会及び自然を自分との関わりで捉え、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	学校のルール、仲間との関係づくり、学校環境の把握、植物の観察等を学習している。これらの活動の中で、自ら他者とかわろうとする意識が低いように感じられる。	コロナ以前の体験的・協同的な学習活動に戻していく。それに伴う授業づくり(研究)をして、児童が意欲・関心を高められるような導入の工夫をしていく。
低	植物を観察して記録する際、描くポイントに苦勞している児童がいる。	五感(触ったり、匂ったりする)を使い、身体全体を使って表現できるようにする。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
自ら考え、思いや意図をもって、友達と協働しながら音楽活動を楽しみ、追究し続ける資質・能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	音楽を聴いて、からだを自由に動かしたり歌ったり、リズムをとったりする活動に意欲的である。	音楽を聴いて、聴き取ったり感じ取ったりする活動を大切にし、そこから音楽で身に付けたい知識・技能とつなげていく。
中	音楽を聴いて、からだを自由に動かしたり歌ったり、リズムをとったりする活動に意欲的であるが、表現につながる技能の習得に時間がかかる児童がいる。	低学年や1学期に学習した音楽を聴き取って、感じ取ったことを大切にしながら、表現につなげていく。技能の習得にかかる児童については、児童同士の関わり合いの中で習得できるようにする。
高	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら音楽を感じ取って聴く活動に意欲的な児童が多い。	自分の思いや意図が表したい曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いや考えをもとに粘り強く創造し、活動の中でより良い方法を考え、繰り返し試しながらイメージを変え、自ら決めて作品を完成させる資質・能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	幼児期の経験を生かしながら、楽しく創造活動に取り組んでいる。	手や指先の感覚を働かせる活動や、新しい用具や材料を使う活動を少しずつ加え、段階的に楽しく創造活動に取り組めるようにする。

中	楽しく創造活動に取り組んでいる中で、アイデアが浮かばず、困っている児童がいる。	鑑賞活動を通し、自分や友だちの表現の違いや良さに気づき、次への創造活動につなげる。
高	人に作品を見られることに抵抗があったり、制作過程で難しいことに直面するとあきらめてしまう児童がいる。	今までの図工の学びを生かし、自分の好きな色や形、表現の方法、用具や材料を自己選択できる題材で、自分らしさを探求できるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。また、「自分事」として自らの生活を見つめ直し、学び合いの中から、多様な考えを交流するとともに、自身の生活に生かそうとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・学習に対し一生懸命取り組む児童が多い。 ・生活の中で実践的に取り組もうとする意識が低い。	・学習で学んだことを、少しでも学校や家庭で実践に繋げている場面を価値付ける。 ・「自分事」として学習課題を設定する。 ・生活の営みに係る見方・考え方を広げられるような学習活動の工夫・認識の共有の場をつくる。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・運動の特性を理解し、基本的な技能を身に付けるために粘り強く練習に取り組む態度を養う。 ・運動に親しむとともに、自己の能力に適した課題を見付け、解決に向けて自分に合った運動の場や方法を考えて取り組もうとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・意欲・関心が高く、積極的に友達のいいところやコツを見付けようとする児童が多い。 ・ボール投げの技能の差が大きい。	単元の中に帯で、投げたりとったりする運動遊びの時間を設定する。楽しみながらたくさんボールを投げる経験を積ませる。
中	・自ら進んで体を動かし、体力の向上に努めようとしない児童もいる。 ・運動の二極化(普段から運動をしている・していないや、特定の運動領域に偏った技能が身に付いているなど)が見られる。 ・体力テストの結果から、50M走やソフトボール投げなど、瞬発系の力が不足している。	・児童の実態に合った教材を取り扱い、誰でも楽しく力いっぱい取り組み、達成感もてる授業づくりを目指す。また、個々に合わせた用具や場の設定を考え、全体と個別の指導(支援)をセットに考えた授業展開にする。 ・瞬発力や持久力、柔軟性、巧緻性等、総合的な体力の向上を目指した授業づくり(単元計画や年間指導計画)を考えていく。課題の体幹や瞬発力についてはそれを鍛えるための体づくり運動に取り組んでいく。また、基本的な走り方・投げ方が分からない児童には、走・投の祖形態を踏まえた

		感覚づくりの運動を単元の帯として設定するなど、手立てを工夫していく。
高	・用具の準備・片付け、きまりやルールを守って安全に学習を行うなど、学びに向かう姿勢は前向きな児童が多い。 ・運動の特性を理解して、運動に取り組もうとしているが、自分の能力に応じた練習を考えたり、仲間の運動を見て価値付けたりすることに課題がある。 ・器械運動の技能に個人差がある。	・お互いの運動のよさを認め合う場を設けて、一人一人が運動の達成感をもてるような、多くのバリエーションに富んだ場の設定を行う。 ・運動の特性を理解させた上で、ルールや場を工夫したり、タブレットを活用したりして、グループやチーム、個人で技能や体力を高められるようにする。その際には、あらかじめ全体で確認した運動のポイントなど視点を明らかにして話し合うようにする。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
伝える楽しさ、伝わる喜びを味わい、豊かなコミュニケーション能力を育む素地を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・意欲関心は高く、聞こうとする態度も前向きである。 ・母国語ではないために、受け身になりがち。	・歌やチャンツ・ゲーム等の活動を通して、簡単な単語を声に出して発音する場を増やすことで、自信をもって話せるよう支援する。
中	・全体的には、歌やチャント、ゲームなど、各活動に意欲的に参加している児童が多い。 ・英語に対する苦手意識が芽生え、自分から積極的にコミュニケーションを図ることができない児童がいる。 ・主体的に学ぼうとする姿勢は良い。 ・積極的に声に出して発音したり、進んでALTとやり取りをしたりする児童が限定されている。	・一人一人の児童が外国語でのコミュニケーションの楽しさを感じられるように、TIである担任が授業展開やグルーピングを工夫し、積極的に発言でき、間違いも受容できる活動や場を設定する。 ・歌やチャンツ、ゲーム感覚で行えるなど外国語に親しむことができる活動を通して、声に出して発音する場を増やす。 ・ALTだけではなく、学級担任や友達と一緒に外国語でのやり取りを繰り返すことにより、自信をもって話せるように支援する。
高	・教師やALTの話に耳を傾け、聞いて学びを深めている。 ・積極的に話す児童が限定されている。 ・英語を用いた言語活動を通して、聞き取ったり、書いたりする活動はできるが、話すことに苦手意識をもっていたり、分かりやすく伝えたりすることに課題がある児童が多い。	・導入及び、展開で動画教材を活用することにより、話す内容や話し方を児童の視覚、聴覚に訴え、話すことの不安を取り除き、積極的に話そうとする態度を育てる。 ・ALTの発話(音声)に十分に慣れ親しませる。また、復唱したり、フレーズを変えて言い直したりして繰り返し声に出す活動を増やしていく。 ・学習した表現やフレーズを用いてゲーム的な活動を取り入れ学習意欲を高める。また、簡単なア

		クティビティをして、話したり伝えたりすることの楽しさを味わせる。
--	--	----------------------------------

Ⅱ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めようとする態度を養う。 ・道徳的な価値を理解するとともに、自己理解、他者理解を深めようとする態度を培う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	ワークシートに、自分の考えを書いたり、それを友達と積極的に話し合ったりすることができる。 学習したことを、自分事としてとらえ、実生活に生かせない傾向がある。	学習したことをワークシートなどに継続して蓄積していくことで、教師だけでなく、児童にも自分自身を振り返ったり、お互いの成長の様子に気付かせたりする機会を積極的に設ける。
中	・学習課題について、自分のこととして物事を捉え、発言したり、書いたりできない児童もいる。 ・学習したことと実生活と関連させることが難しい児童もいる。	・ICT機器を活用し、自分の考えを明確にし、話し合うことで、多面的・多角的な見方を養ったり、道徳的価値の理解を深めさせたりする。 ・道徳の時間はもちろん、道徳外の学校生活でも取り上げ、道徳的実践を行っていることに対し、価値付けをして学級全体に共有する。 ・ワークシートを活用して、自分の考えを明確にし、話し合わせることで、多面的・多角的な見方を養ったり、道徳的価値の理解を深めさせたりする。 ・ワークシートを蓄積し、自分の成長を振り返る機会を設ける。 ・児童が道徳的価値について主体的に考え、実践につなげられるよう、実際の生活場面と教科書の指導内容とを関連させて授業展開する。
高	・学習課題について、自分の経験と結び付けて考えたり、自分の考えを基に、積極的に話し合ったりすることができる。 ・学習したことを、実生活に生かせないことが多い。 ・教材の登場人物の心情に寄り添い、自分事として考えたり感じたりすることができている。一方で、友達の考えを聞いて、自分の変容を伝えたり、考えが深まったと共有する場がない。	・教材を工夫し、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動したりすることを通して、道徳的価値への理解を深め、自己を見つめる学習を積極的に取り入れる。 ・多様な感じ方や考え方に接することができるように、対話的な活動の場を増やす。また、交流の場面では机の位置を工夫することで、お互いの意見が伝えやすいようにする。

I 2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
地域の人、もの、ことについての探求的な学習に主体的・協働的に取り組むと共に、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	観察や活動が主になってしまうことが多く、考えたことに対してその根拠を明らかにしてまとめ・表現することが疎かになりがちである。そのため、児童が考えをまとめたり、学んだことを伝え合ったりする力が十分に育っていない。	・年度当初に行ったワークシートを基に、2学期以降、児童の興味・関心に基づいた目標を実現するにふさわしい探求課題を再設定する。 ・I C Tや図書などを活用して、調べ学習により意欲的に取り組ませたり、体験を取り入れた学習を行ったりする。また、学習の終末に本作りや発表会を設定し、他者意識や目標をもって、意欲的に学習に取り組めるようにする。
高	インターネットで必要な情報を調べることはできるが、大量の情報の中でどの情報が自分にとって有益であるのか取捨選択したり、どのように整理するとよりよいのかを考えたりすることに課題がある。	・相手意識や目的意識を明確にして、まとめたり表現したりする。統計や客観的なデータなどを整理・分析する際に、「比較」「分類」「序列化」「原因と結果」など情報を捉えるための思考ツールを活用できるように他教科の学習成果を生かせるようにする。 ・相手意識をもたせるために、下学年や保護者に対してなど、学習の成果を発表する場を設ける。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに自己の生き方や在り方を見つめ、自己を高める資質や能力を高める。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・主体的に取り組む児童が多い。 ・折り合いをつけながら進めることが難しいことがある。	・話し合いや係活動の時間をしっかりと確保し、他の意見にも耳を傾け、多面的な捉え方を養う。
中	・主体的に話し合いや活動に取り組む児童が多い。 ・児童自身の目標だけではなく、学級の目標をもって活動に取り組んだり、創意工夫して活動を進めていくことが十分でない児童がいる。 ・学級会の話し合いでは、どこで折り合いをつけるかが難しい場面がある。	・話し合いや係活動の時間をしっかりと確保すると共に、自分とは違う意見にも耳を傾け、多面的な見方・考え方ができるよう声を掛ける。 ・話し合いでは、多数決にならないよう(少数意見にしっかりと耳を傾けていく姿勢で)、司会者グループを育てていく...

高	・学級会では意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなどの集団としての考えをまとめることができている。 ・合意形成を図る場面や実践の場では、個人差がある。	・声をかけ合ったり、意見を出し合い主体的に取り組んだりすることができるようにするため、必要な時に助言ができるよう児童の活動を見守る。 ・問題の発見・確認から解決に向けた話し合い、解決方法の話し合い及び決定、実践、振り返りといった一連の活動を常態化し、常に見通しをもって取り組めるようにする。
---	---	--

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	学習に苦手意識をもつ児童が多い。	・児童の認知特性に応じた学習方法を考えさせたり、教えたりする。 ・認知機能を高める指導を行う。
中	通級指導を受けている児童が数名在籍している。どの児童にも理解しやすい授業や生活しやすい環境づくりを心がけ、インクルーシブ教育を取り入れた指導・支援を行っている。	・児童理解に努め、個々の実態や課題を丁寧に把握した上で、適切な指導や必要な支援を行っていく。見通しをもって学習や活動ができるように、単元や学習や活動の流れが分かるように全体に提示したり、視覚タイマーを活用したりする。 ・一人一人が落ち着いて学習に取り組めるよう、座席に配慮したり、教室内の刺激を減らすよう整頓したりする。
高	通級指導を受けている児童が数名在籍している。どの児童にも理解しやすい授業や生活しやすい環境づくりが必要。	・児童理解に努め、個々の実態や課題を丁寧に把握した上で、適切な指導や必要な支援を行っていく。 ・集団生活での行動の見通しを事前に伝えておくことで、宿泊学習などに安心して取り組めるように配慮をしている。